

静岡新聞 2026 年 8 月 5 日 付

東京大名誉教授(国際経済学)

伊藤 元重

週末に日本政府による大規模な為替介入が行われたようだ。日本政府・日本銀行が手持ちのドルを外国為替市場で売りに出し、円を購入する行為である。この行為によって市場には大量のドル売り・円買いが出ることになり、為替レートは円高(ドル安)方向に動くことが期待される。

先週のこの欄で「過剰な円安である」ということを書いたが、日本政府も同じような問題意識を持っているようだ。大規模な為替市場の介入を行ったことで、過度な円安は日本にとって好ましくないというメッセージを発している。今回の動きで注目されるのは、米国が日本と連動して介入の動きを見せたことだ。過剰な円安・ドル高は、米国にとっても好ましくないということだ。

円安が続くことが好ましく

論壇

「円安は行き過ぎ」日米合意

ない理由は多々あるが、その中で最も懸念されるのは円安によって日本の物価上昇が加速することである。足元では物価の動きは少し落ち着いているように見えるが、これは政府によるガソリンなどへの補助金のおかげもある。円安が続けば海外から調達するエネルギーコストも上昇し、今後の物価上昇にもつながりかねない。

こうした中で日銀は政策金利の据え置きを決定した。前回の会合で政策金利を1%に引き上げたばかりであるので、今回は様子を見ようというところだろう。ただ植田和男総裁は、政策決定会議後の記者会見で物価上昇への懸念を述べた。必要があれば金利引き上げを行うだろうということだ。日銀が金利引き上げを行えば為替レートを円高に動かす可能性も高いので、この総裁発言も今後の為替レートの動きに影響を及ぼしかねないものである。

前回のこの欄でも強調したが、現在の円レートは歴史的に見ても際立って円安の状況にある。1ドル160円という名目での円ドルレートもさることながら、日本で長期間デフレが続いたため、日本の物価や賃金も国際比較で際立って安くなっている。専門用

語を使って恐縮だが、物価の動きも考慮に入れた円の実質実効為替レートで見ると、この半世紀の中でも最も円安に近い水準ということになる。

この円安の状況は早急に是正されるのだろうか。それともしばらくは円安の状況は続くのだろうか。為替レートの先の動きを予想することは難しい。この先、円安も円高もありうる。ただ、為替介入を行うことで、政府は超円安という状況を是正しようとする意思を示している。ただ、為替介入だけでは一時的な効果しか持ち得ない。これまで何度を経験してきたことだ。為替介入だけで為替レートのトレンドが大きく変わるものではない。

ただ、今回は日本政府だけでなく、米国側でも為替介入の動きがあったと報道されている。日米の協調介入とまで言えないまでも、「円安は行き過ぎている」ということに日米のコンセンサスが示されたことは大きい。それに加えて、円安が続くことで物価上昇が加速することを懸念する日銀の姿勢も重要だ。インフレの懸念が強まれば、金利引き上げのペースを速めるだろう。こうした流れを見ると、為替レートにも変化の兆しが見えてきたのかもしれない。